

【学校教育目標】 「自分とみんなのために」心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成
【目指す児童像】 「気づく子 学ぶ子 元気な子」

玖城のほとり



大村市立大村小学校
学校だより

第9号

令和7年9月2日発行

文責：校長 堺 邦寿

★ 2学期がスタートしました！ ★

44日間の夏休みが終わり、昨日から2学期がスタートしました。8月9日の登校日は、悪天候が予想されたために中止となりましたので、久しぶりに会う子どもたちは、一段と大きくなったように感じました。

昨日の登校時は、夏休みにがんばって作った作品を大事に抱えながら登校する姿に、子どもたちの夏休みの努力を感じました。宿題をはじめとする作品づくり等への声かけなど、御協力いただき、ありがとうございました。大きな事故やけが等の連絡もありませんでした。地域で行われたラジオ体操にも多くの子どもたちが参加していました。

1学期の終業式の日にした①自分の命を自分で守る、②夏休みにしかできないことにチャレンジする、③地域の行事に進んで参加し、地域の方々に進んであいさつする、ということ子どもたちがしっかりと守ることができたように思います。これもひとえに保護者の皆様の御協力のおかげと深く感謝しております。ありがとうございました。

★ いつも感謝の気持ちをわすれずに！ ★

昨日の始業式で、2学期に頑張ってもらいたいこととして、「まわりの方への感謝の気持ち、ありがとうの気持ちを忘れない」ということを話しました。（以下は、始業式で子どもたちに話した内容です）

今年の高校野球甲子園大会で優勝した沖縄尚学高校の眞喜志拓斗キャプテンの優勝インタビューが全国のみなさんに感動を与えました。優勝した日は、眞喜志選手のお母さんの誕生日。アナウンサーから「今日はお母様の誕生日ですよ。ここからお祝いの言葉を送ってみませんか」とインタビューされた眞喜志選手は「甲子園で優勝できるまで育ててくれてありがとうございました」と感謝の言葉を述べました。すると、球場全体は温かな拍手と大きな感動に包まれました。最後には、「たくさんの方々が応援してくれて、優勝という最高の結果が出すことができました。本当にありがとうございました。」と締めくくりました。私もずっとこの様子を見ていましたが、自然と涙があふれてきました。きっと私たちが想像できないほどの努力を続け、その努力の途中にも、まわりの方々への感謝の気持ちを忘れないでいたからこそ、多くの方々からの応援をいただき、甲子園優勝という偉業を成し遂げることができました。好きな野球に打ち込めるのは、家族、友だち、先生、地域の方々など、まわりの人にお世話になっていることを忘れず、まわりの人への感謝の気持ちをもてる眞喜志選手のような人になってほしいと思います。そんな人が増えていくと、大村小学校が、今よりもっともっと温かく楽しい学校になります。みんなが笑顔で過ごせる努力を続け2学期も温かく楽しい大村小をつくっていきましょう。

★ ありがとうございました！ ～8/4(日)学校内トイレの清掃活動～ ★

夏休み期間中の8月4日（日）朝の7時から9時までの2時間、保健・環境委員会の皆様に、校舎内トイレ及び体育館前トイレの尿石除去剤塗布、清掃活動を行っていただきました。

保健・環境委員会の皆様のご協力のおかげで、学校内のトイレの環境が良くなり、2学期からの学校生活も快適に過ごせています。

委員長様、委員会三役の皆様には、当日の清掃活動だけでなく、事前の必要物品の準備等も行っていただきました。

お忙しい中、また暑い中のご協力に改めて感謝申し上げます。

誠にありがとうございました。



※裏面に、木村指導教諭作成の「特別支援教育だより」№5 を載せております。どうぞお読みください。

～みんなちがって みんないい (その5)～

今月は「チャイルド・マルトリートメント(Child Maltreatment)」についてお話させていただきます。

みなさん「チャイルド・マルトリートメント」という言葉を聞かれたことはありますか？もしかすると育児書などを探されている途中で目にされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「マルトリートメント」を日本語で説明すると「避けるべき子育て」ということを意味します。今から40年ほど前、アメリカを中心に欧米で広まった表現で、子育てや教育における「不適切な養育」を避けるべく生まれた考え方です。

子どもの養育と発達の関係に詳しく、マルトリートメントについていくつもの著書を執筆されている、福井大学「子どものこころの発達研究センター」教授の友田明美先生は、WHOのチャイルド・マルトリートメントの定義は身体、精神、性的虐待そしてネグレクトを含む児童虐待をより広く捉えた、大人から子どもへの発達を阻害する行為全般を含めた不適切な養育を意味するとおっしゃっています。

具体的なマルトリートメントとはこういったもののなのか、少しご紹介します。

- ① 「躰(しつけ)」の範囲という認識で、暴言や汚言を子どもに浴びせる。
 - ② 叩く、蹴る、無視する。
 - ③ 十分な食事を与えない、お風呂に入れない、洗濯や掃除をしない状況で育てる。
- これらは、とても分かりやすい例ですが、次はどうでしょう。
- ④ 子どもの前で夫婦喧嘩をする。
 - ⑤ 子どもに妻または夫、祖父母の悪口を言う。
 - ⑥ 子どもの話を聞かない。子どもの話をさえぎり、親だけが話をする。
 - ⑦ 親が決めた教育方針、進路、職業などを、子どもの意思を無視して押し付ける。
 - ⑧ 親の気分次第で子どものスケジュールを振り回す。
 - ⑨ 子どもが遊んでほしいのに、親がスマホばかりをいじっている。親が自分の時間を作るために子どもにスマホやゲームを渡し、無制限に使わせる。
 - ⑩ 子どもに門限が無い。親が居ない間、子どもが何をしているのか全く知らない。

思い当たることはありませんでしたか？

精神保健福祉士の矢澤敬子さんは前述のような事例もマルトリートメントであると言われ、親や教師など子どもに関わる大人が、気付かないうちに子どもを傷つけていることがあると危惧されています。

では、マルトリートメントに気を付けなければいけないのは何故なのでしょう。

友田先生はマルトリートメントによって子どもの脳が損傷する危険性について警鐘を鳴らされています。これは医学的に証明されていて、虐待を受けた児童の脳のMRI画像からもはっきりと分かります。脳に損傷を受けた子どもたちは、「学習意欲の低下や引きこもり症状の発症」「大人になっても何かのきっかけで辛いことを思い出すPTSD

(心的外傷後ストレス障害)の発症)」「うつ病・不安症・摂食障害・睡眠障害・自殺企図などの精神疾患」を抱える確率が高いのです。

また、マルトリートメントの頻度が多いと、愛着形成に問題が起きるため、落ち着きがなくなったり、友だちに暴言や暴力を振るったりするようになりますし、大人になって自分が同じことを繰り返す親になってしまいます。

前回ご紹介した文教大学教授で小児科医の成田奈緒子先生は、睡眠と脳の成長の関係についても注意を払う必要があることを指摘されています。

適正な脳の発育の為に、就学前までは1日10時間、小学6年生でも9時間30分の睡眠時間が必要であるとの研究結果です。

ゲームや動画を与え過ぎて睡眠時間を十分に与えないこと、親が睡眠時間を管理しないこ

ともマルトリートメントになりますし、何よりも子どもの発達を大きく阻害します。

「これでは“しつけ”ができない」と思われる方も多いと思います。子どもに正しい倫理観や価値観を教える“しつけ”は大切です。しかし「強者」である大人が、「弱者」である子どもに怖い思いをさせることは、想像するよりも強い衝撃を与えることを忘れてはいけません。

